

ITリテラシー教育を見直そう

～高校生の私たちから～



北海道富良野高等学校

フェイクニュースに騙されやすい人・事例

- 災害時パニック状態で手に入る情報は信じやすい
- 不安や怒り、正義感を煽る情報が多い
- 知人からの情報は信じてしまいやすい
(情報を手に入れた優越感などから) 悪意ではなく
善意で伝えようとしてしまう
- 10~20代は「自分が引っかけからない」と過信してしま
うことが多い(統計あり)



気を付けるべきこと

- 「まず疑う」という姿勢を持っておく
- 自分の考えを持っておくようにする
(他人に左右されないようにする)
- 情報の出所を確認してみる
- タイトルはインパクトを重視したものが多い



これをみんなができるようになるためには...

私たちの提言① 教育編

- 情報の格差を埋めるために
 - 義務教育の中で情報リテラシーについて学ぶ機会を均等に設ける(必修化)
 - 話を聞くだけでなく、体験型(避難訓練型)で学べる
 - 子だけでなく親にも学ぶ機会を(親子参加型)
 - 1度きりではなく、継続的に行う



私たちの提言② しくみ編

- Jアラートやdボタンなど、政府から発信される信ぴょう性の高い情報をすぐに見ることが出来るようにする
- 情報を発信する際に確認の表示が出るようにする
(政府→各企業)
- CMや広告(映像)でわかりやすく伝わるようにする

